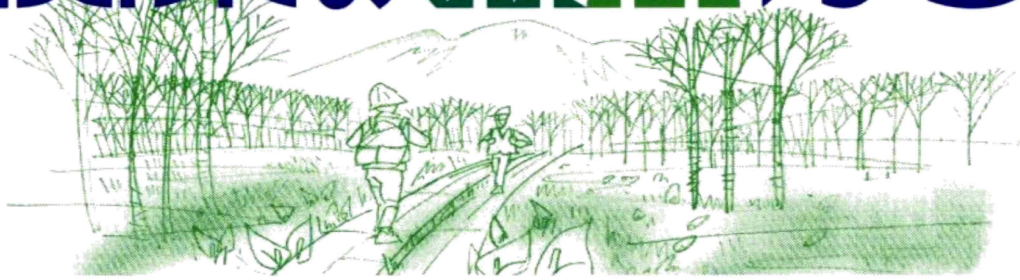


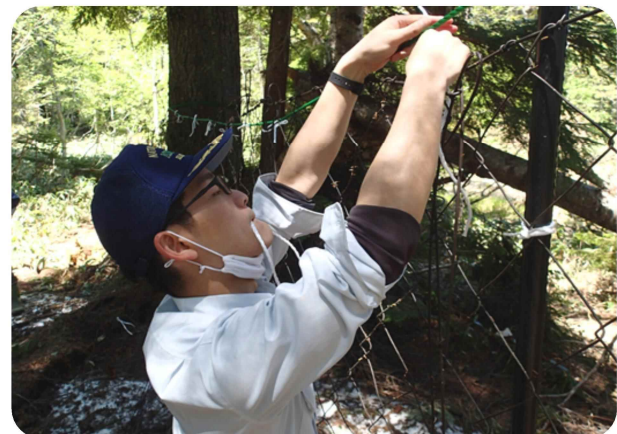
関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25
TEL.027-210-1158
<http://www.rinrya.maff.go.jp/kanto/>



尾瀬国立公園におけるニホンジカ対策 (会津森林管理署南会津支署)

- ◎ 「特定母樹について」 森林整備課・・・2
- ◎ 今年度の森林計画の策定等について 計画課・・・4
- ◎ 小笠原の島から ～中学生への森林教室～ 祝・世界遺産登録10周年！
小笠原諸島森林生態系保全センター・・・6
- ◎ 新型コロナウイルス感染症に伴う木材需給動向と国有林材の供給調整の取組
資源活用課・・・7
- ◎ 森づくり最前線 群馬森林管理署渋川森林事務所 森林官 小椋 清一・・・8

「特定母樹について」

森林整備課

現在日本の森林は、戦後に植栽された樹木の多くが伐採・利用期を迎えており、伐って使う、循環型林業を目指した取り組みが進んでいます。

樹木を伐採した後は苗木を植え、その苗木が順調に育つよう「保育」と呼ばれる作業を行います。保育作業の中で最も大変な作業が、雑草類の繁茂期である夏期に行われる「下刈」です。苗木を植え付けてから5年間程度、苗木の周囲の草を刈り取り、植栽した木が雑草に覆われることによって、光が当たらず枯れてしまったり、成長を阻害されることを防ぐ重要な作業です。下刈は、気温が非常に高い夏の時期に行われるため、山で働く人たちの大きな負担となっています。



【夏の下刈の様子】

そのような中、下刈作業の軽労化と、さらには林業の成長産業化の切り札として注目されているのが、成長などが優れた樹木同士を交配して作られた、「特定母樹」と呼ばれる樹木になります。

それぞれの地域の人工造林地において、最も成長が優れた樹木として、1950年代に全国各地から集められた、スギ、ヒノキ、カラマツなど、約9,000本の樹木を「精英樹」と呼びます。その精英樹を各地の試験地で育てていく中から、さらに成長の良い樹木を選び出し、優良な樹木同士を人工的に交配させ、全国の試験地で数十年にわたって調査と研究を行ってきました。定期的な調査を繰り返し、さらに選抜された樹木、約800本を、「エリートツリー」として選定しています。エリートツリーの中で、格段に優れた特徴を持つ品種を農林水産大臣が「特定母樹」として指定しています。（2021年3月現在で413品種）

特定母樹は今までの苗木と比較して成長が早く、剛性に優れ、真っ直ぐに伸びるなど高品質で、花粉が従来の半分以下といった特徴を持つ、優れた品種だけが選定されます。

具体的な例としては、成長は従来の標準的な苗木の1.5倍以上で、より多くの二酸化炭素を吸収し固定することができ、地球温暖化対策にも貢献できることや、従来種よりも短い期間で下刈作業を必要としなくなる樹高に達するため、下刈の回数が減り、真夏に現場で働く人たちの負担と、下刈に必要な経費を減らすことができます。

伐採後、柱などに加工された際の剛性は、同様の林分から出材された木材と同等以上の強度を有し、また、通直性に優れているため、真っ直ぐで曲がりが少ないことから、伐採時の作業がしやすく高品質で、市場に出回る際にはより高値で取引されることが期待されています。



【植栽後1年経過した特定母樹】



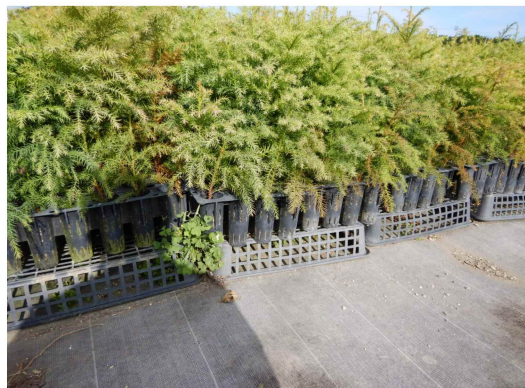
【平成27年植栽 特定母樹(手前側)】

また、現在多くの方が辛い思いをしている花粉症の原因となる雄花の花粉量も、従来のスギ、ヒノキと比較しておおよそ半分以下となっており、花粉症対策にも期待が寄せられています。

こうして長い時間をかけて生まれ、優れた特徴を持った特定母樹を増やすための施設が、原種園、採種穂園と呼ばれる施設です。原種園では特定母樹の穂を、つぎ木やさし木を行うことによりクローンを増やし、育成していきます。こうしてできた苗木を、次に採種穂園に移し母樹として育てることで、そこから優秀な特定母樹の種子を採取したり、穂木を計画的に生産することができるようになります。生産された種子や穂木は苗木生産者へと送られ、特定母樹の苗木として山に植え付けられるまでの間育苗されます。育苗は主にコンテナで行われ、その後、造林業者等により山の造林地に植え付けられ下刈等の保育作業により成長していくことになります。



【静岡県西部農林事務所育種場施設内の様子】



【山行きのコンテナ苗】

特定母樹の苗木は、国の研究施設と都道府県の育種施設でのみ取り扱ってきましたが、2013年の法律改正により、新たに認定を受けた民間の増殖事業者の力も借りて、2018年に約240万本であった特定母樹から育成された苗木の出荷数は、2028年には約1,400万本に達する見込みとなっています。現在の全国の苗木生産本数6,000万本のうち、おおよそ四分の一が特定母樹から育成された苗木となる見込みとなり、今後より一層、特定母樹の普及が進むものと期待されています。

色がきれいなきのこ



ウスキキヌガサタケ

(スッポンタケ科 キヌガサタケ属) (食用)

6月上旬から9月下旬の竹林内に散生から群生する。

幼菌は径3～5cmの白色の卵形で基部に根状菌糸束があり、頂部が割れて成菌になる。成菌は柄の長さ15cm～18cmの白色で中空。上部から淡黄色のマントを垂らす。

カサの表面は網目状の隆起があり暗緑色の粘液化したグレバ（孢子）を付ける。グレバは臭く、この臭いで虫を誘い孢子を遠くに運ばして分布域を増やす。頂部が破れてから成長するまで約2時間掛かり午後には倒れてしまう。

ホシアンズタケ

(タマバリタケ科 ホシアンズタケ属) (食用)

6月上旬から9月下旬にハルニレやヤチダモの倒木に散生する。

カサは径3cm～7cmで表面はピンク色で大理石模様がある。

柄は長さ5cm～8cmで表面は平滑で白色で、赤色の水滴を付ける。

ヒダは薄いピンク色で柄に直生する。



今年度の森林計画の策定等について 計画課

関東森林管理局では、1都10県の森林面積の約3割にあたる119万haの国有林を管理しており、「全国森林計画」や「国有林野の管理経営に関する基本計画」に即し、森林管理局長が森林計画区ごとに「国有林の地域別の森林計画」、「地域管理経営計画」、「国有林野施業実施計画」（図1）、（図2）を策定し、これらの計画に基づき適切な管理経営に努めているところです。

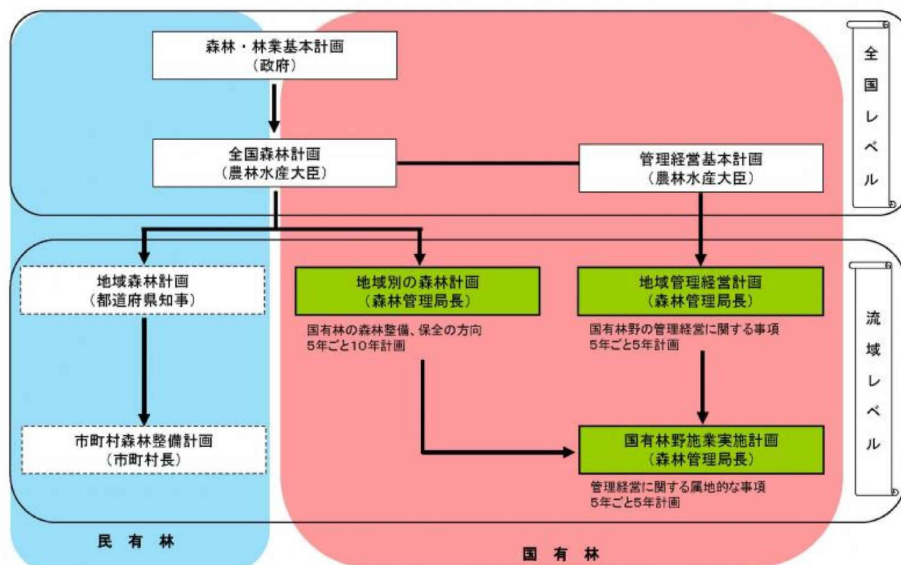
全国森林計画は、森林法の規定に基づき、森林・林業基本計画に即して農林水産大臣が5年ごとに15年を1期（平成31年4月1日から令和16年3月31日の15年間）としてたてるものであり、森林の整備及び保全の目標、伐採立木材積等の各種計画量、施業の基準等を示すものとなっています。

今般6月15日に新たな森林・林業基本計画が閣議決定されたことを踏まえ、全国森林計画の変更が行われ、木材等生産機能の維持増進を図るべき森林での再生林の促進、林地の保全に留意した適切な伐採・搬出の確保、走行車両の大型化や豪雨の増加傾向等を踏まえた林道整備に関する記述等が追加されたところです。

こうしたことを受け、今年度計画策定を予定している会津森林計画区等6計画区（図3）及びその他25計画区についても、変更された全国森林計画の内容等を踏まえた計画策定や計画変更（一斉変更）を行うこととしており、この内容については、局ホームページへの掲載等による公告縦覧、学識経験者及び地方公共団体からの意見聴取等を通じて、広く国民の皆様のご意見を反映することとしています。

国有林は国民の貴重な財産であり、各計画に基づき管理経営を行っていくことが重要です。今後とも、公益重視の管理経営を一層推進するとともに、林地の保全に留意しつつ、林業の成長産業化に貢献できるよう、適切な計画の策定に努めてまいります。

森林計画の体系



(図1)森林計画の体系



(図2) 森林計画区位置図

令和3年度に計画を樹立する森林計画区

県	森林計画区	森林管理署等
福島県	会津	会津森林管理署
		会津森林管理署 南会津支署
茨城県	霞ヶ浦	茨城森林管理署
栃木県	渡良瀬川	日光森林管理署
群馬県	利根下流	群馬森林管理署
東京都	伊豆諸島	東京神奈川森林管理署
		小笠原総合事務所
山梨県	富士川上流	山梨森林管理事務所
静岡県	伊豆	伊豆森林管理署

(図3) 令和3年度 樹立計画区



(図4) 主伐・再造林地(写真)



今月の表紙

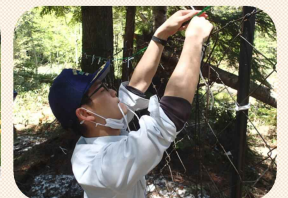
尾瀬国立公園におけるニホンジカ対策

(会津森林管理署南会津支署)

【上：大江湿原上空から望む尾瀬沼ビジターセンターなどが立ち並ぶ尾瀬沼東岸
右下：湿原周囲に防鹿柵を設置】

尾瀬国立公園は、貴重な高山植物や湿原植物等、優れた自然環境が残された国立公園です。花の湿原として人気の大江湿原でも、近年、ニホンジカの食害が拡大していることから、南会津尾瀬ニホンジカ対策協議会の呼びかけにより、防鹿柵を設置し湿原植物を守る取り組みを行っています。

尾瀬ヶ原に比べ標高が高いこのエリアは、春から夏の花は1週間ほど遅く咲き、7月20日前後にはニッコウキスゲの群落を見ることができますので、一度訪れてみてはいかがでしょうか。



小笠原の島から ～中学生への森林教室～ 祝・世界遺産登録10周年!

小笠原諸島森林生態系保全センター



小笠原諸島森林生態系保全センターでは、例年、地元父島の小笠原中学校1年生を対象に森林環境教育を行っています。今年度は中学1年生22名に対し、6月10日(木)に1コマの講義を、翌11日(金)に現地外来植物の駆除を行いました。

普通、学校向けの森林教室では森林の公益的機能の解説や下刈・除伐などの保育作業、クラフトなど森林の重要性を理解してもらうことや森林にふれあうことが目的となりますが、小笠原では原始的な自然の価値とそれを脅かす外来種への対応に特化した森林教室を行い、自分たちが普段目にしている景色が世界的に貴重であることを理解してもらうことを目的としています。このため、10日の講義では、小笠原の植物の由来や在来種と外来種の考え方、外来種駆除の必要性といった点を中心に話を進め、11日の現地では実際に各生徒にノコギリを渡し外来種駆除の作業を行ってもらいました。

今回の現地は東平国有林にある東平アカガシラカラスバトサンクチュアリー内で行いました。東平国有林の周辺は父島列島に生息する絶滅危惧種の約7割が生息しているとされており、このサンクチュアリーは小笠原固有の動物であるアカガシラカラスバト(地元ではアカポッコと呼ばれています。)の保全のために関係機関と共同で設けられた箇所です。この取り組みの成果として、20年ほど前には40羽ほどと絶滅の危機に瀕していたアカガシラカラスバトが現在では400～500羽ほどに回復し、幻とまで言われたアカポッコが街中の公園でのんびりエサをついばんでいる様子も見られるようになっていきます(本州のドバトと変わらない雰囲気なので、捕まえようと思えば捕まえられるのではと思います。だから絶滅の危機まで追い詰められたのでは...)。話がそれましたが、生徒たちは講義の成果があったのか、外来種駆除作業では固まって生

えている外来種の稚樹や5mほどに育ったアカギなど、疲れ知らずでガンガン駆除していました。1時間弱の作業でしたが、大量の外来植物を駆除し、作業後は「小笠原の自然の貴重さがわかった。」「外来種をこれ以上増やさないようにしたい。」「大きい木を倒して楽しかった。」などの声が聞かれ、今回の森林教室で小笠原の未来を担う子供たちにその貴重な自然についてしっかりと理解を深めてもらうことができたと思います。



アカギの伐採作業



作業後の集合写真

新型コロナウイルス感染症に伴う 木材需給動向と国有林材の供給調整の取組

【新型コロナウイルス感染症の影響等による原木不足への対応について】

資源活用課

昨年の春から夏にかけては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から製材品の需要が減少し、各地で木材の荷余りが生じ原木価格が下落するなど木材市場の先行きが見通せない状況が続きました。その後、住宅着工件数の減少が当初の予想より小幅に収まったことや梅雨時期に出材が絞られたことなどから、木材価格は秋以降、上昇に転じ新型コロナウイルス感染症の影響が出る前の水準まで回復しました。

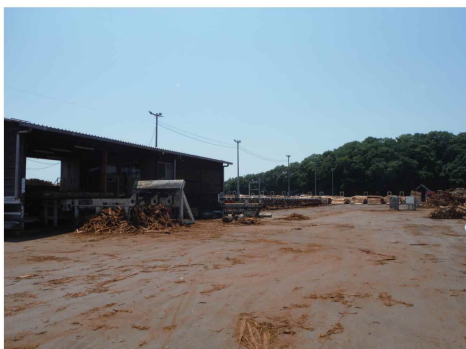
例年であれば年明けから梅雨期にかけて材価が下がりますが、今年は例年のように材価が下がっていません。これには、米国での自宅待機要請や低金利を背景とした住宅の新築・増築等件数の増加や輸送用コンテナの不足など幾つかの要因から、国内需要の約6割を占める輸入材の供給量が減少し各地で輸入材の不足と価格上昇がみられるようになったことが影響しています。そのため、輸入材の代替として国産材に注目が集まり、4月以降、価格が例年より高くなる地域が出てきました。

関東森林管理局管内においても、年度当初から国産材丸太の引き合いが強くなり、各地から原木不足の情報が聞かれるようになりました。木材価格も上昇しており、需要に供給が追いつかないなど一年前とは異なる状況が見られています。

このような状況を踏まえ、関東森林管理局では5月31日に臨時の国有林材供給調整検討委員会を開催（WEB会議）し、管内各地域の木材価格や需要動向について情報の共有を図るとともに、国有林材供給調整の必要性についての意見交換等を行いました。

検討委員会では、「各地において原木不足の状況が生じており、木材価格も上昇している。」「需要量に対して供給が追いついてない。」「入荷量は増加に向かうと思うが短期的には高価格の状態が続くと予想される。」といった現状や見通しについての発言がありました。また、「これからの季節は造林作業に人手を取られるため生産量は減るのではないか。」「今後も品薄状態は続くと思われるが夏場に入り虫害など材質が悪くなっていくことにより材の価格は不透明である。」といった意見、「現状の木材価格は異常でありいずれ調整局面に入ると思われる。」「木造建築物のコスト増に伴い、非木造化の流れに進みかねないことが懸念されている。」といった今後を心配する意見も出されました。また、国有林材の供給調整に関して、「国有林からの安定的な供給を望む」「原木不足の緩和に向けた取組が必要である」といった意見が出されました。

関東森林管理局では、検討委員会での議論を踏まえ、立木販売の前倒し実施に向けた準備を進めるとともに、地域の状況を踏まえた供給に取り組むため引き続き関係業界等からの情報収集を行うこととしています。



丸太の入荷を待つ市場



国有林材供給調整検討委員会(WEB会議)

森づくり最前線

群馬森林管理署 渋川森林事務所
森林官 小椋 清一

私が務める渋川森林事務所は、冬には上州名物からっ風(赤城おろし)が吹き下ろす群馬県前橋市にあり、前橋市、渋川市の国有林約3,600haを管理しています。

管内はワカサギ釣りなどで知られる赤城山周辺地域と利根川を挟み西側の子持山周辺の大きく2箇所に分かれています。

赤城山周辺地域は広葉樹林が多くあり、釣りやハイキングなど多くの方が来訪します。中にはクマタカなどの猛禽類やサクラソウなどの希少植物が成育するところもあり、サントリー「天然水の森赤城」としてサントリーホールディングス(株)と森林整備協定を結び生育環境に注意しつつ事業を行っています。

子持山周辺では今年度も森林整備を予定しており、間伐で生産される約5,700m³の材などは、群馬



赤城山・大沼(対岸は国有林前橋市富士見町石井黒檜山国有林335林班)



サクラソウ



榛名を望むR1市場化造林地(渋川市横堀寺平国有林308ろ林小班)



林小班カモシカのつがい(渋川市小野子裸岩国有林292ろ林小班)

県森林組合連合会の渋川県産材センターといった地元の木材施設等に納入されます。

当事務所でのここ数年の問題はニホンジカやウサギによる食害があります、全国的に問題になっているこの件には、当事務所も悩まされてきています。

今年は昨年までと違い、シカ柵や樹皮保護と言った防衛的な方法ではなく、森林管理署本署の職員と一緒にシカのワナを設置し捕獲することにしました。

群馬森林管理署内の他の森林事務所では実施していますが、当事務所では初めてのことなので、普段見回りの際にはよく見かけるシカですが、いざ罠を仕掛けて捕獲するとなるとシカが普段どこを歩いているのかを知ることも重要になってきます。

これから、いろいろな方にアドバイスや指導をいただきながら実施し、剥皮の被害や植栽木の食害が少しでも減るよう努力していきたいと思っています。

また、次世代に残せる森林作りを心がけて山を守っていきたくと考えています。



軽石販売箇所造林箇所獣害防除柵施工後(渋川市赤城町北赤城山国有林324は林小班)



山で遭遇したオス鹿

発行所 関東森林管理局
編集 総務課
TEL (027)210-1158
FAX (027)230-1393